



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2021年12月5日

№. 91

その日、その時、わたしはダビデのために
正義の若枝を生え出させろ。
彼は公平と正義をもってこの国を治める。
エレミヤ 33章15節



礼拝献花より

御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。
エレミヤ書 15章16節b

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『待ち人來たり』

牧師 佐藤和宏

ルカ25章25〜36節

待降節を迎え、教会の暦は新しい一年を迎えました。待降節第1主日、すなわち教会の暦における一年の最初の日曜日に、私たちはイエスがロバの子に乗って、エルサレム入城を果たす場面を聞いて来たわけです。そしてその意味するところは、クリスマスにお生まれになる幼子は、十字架の死を遂げられる主であることを覚えることであつたのでした。

一方、改訂された聖書日課ではルカによる福音書21章25節以下が選ばれています。「人の子が来る」と小見出しにありますように、再臨の主の到来を告げているのです。／この變更について、聞いていく。これが今日、私たちに求められていることにちがいありません。耳を傾けてまいりましょう。

「それから」と、今日の日課は始まっています。神殿の崩壊、終わりの日、迫害、エルサレムの滅亡と、苦難に

ついて記されたことを受け、「それから」と続いています。そのような流れを汲むと、「それから、太陽と月に星に徴が現れ」「天体が揺り動かされる」と続きますから、苦難と終わりの日の描写がさらに展開しているように思われます。ところが聖書は次のように続いているのです。「そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。」つまり苦難と思われる状況の中で、人の子が栄光を帯びて来ると告げられているのです。苦難の中で、恐れと不安に惑う私たちがいるのですが、その苦難の中にいる私たちに向かつて、栄光の主が来られるというのです。

さて第一の朗読でお読みしたのは、エレミヤ書33章14節以下になります。この日課の背景を知るために、33章冒頭に目を向けますと、この言葉は、エレミヤが獄舎に拘留されている時に告げられたことがわかります。3節によると「あなたの知らない隠された大いなること」、これが苦難の中にあるエレミヤに、主なる神が告げられたことなのです。

今日の日課である14節では、これ

に対応するように「恵みの約束を果たす日が来る」と、「隠された」神の御心が明らかにされています。しかし主の言葉がエレミヤに告げられた、現状は誰の目から見ても、救いから遠いのです。遠いだけではなく、救いは実現しないように思われるただ中にあるのです。預言者自身も拘留されたままですし、人々はいつまでも続くように思われる、苦難の中にあるのです。恐れと不安にとらわれていて、絶望だけが目の前にある。これが現実なのです。しかしこれこそ「隠された大いなること」「隠された神」の御心なのです。私たち人間の目には、苦難とは大きな否定の中に置かれて見えて、それは救いという神の肯定から遠いと思えるのです。

現在、私たちはコロナ禍にあつて、苦難のただ中にあります。トンネルの出口が見えたような現状ですが、それでもまだ先行きは不透明に思われます。私たちはすべてが収束した後、苦難を脱し安心を得ると考えるのですが、聖書が告げているのは苦難のただ中に輝く、栄光の主なのです。私たちは恐れるのですが、聖書

はその困難の中に、栄光の主が来ると告げているのです。今私たちがなすべきことは、困難の中でむやみに恐れるのではなく、主の栄光の輝きを共に仰ぎ見ることでないでしょうか。そしてこれが、新しい一年の始まりに、私たちが耳にする福音なのです。

「正義」と訳されている同じ言葉は、日課の最後にある「主は我らの救い」と告げられている部分では「救い」とされているのです。神の正義は私たちが裁くのではなく、神の正義こそ私たちの救いということ、これが聖書が告げている内容になります。これこそ、神の肯定があらゆる否定を包み込んで肯定とするということなのです。私たちの信仰では、私たちの救いは、私たちの価値や努力によってもたらされることはなく、ただキリストの十字架にほかなりません。困難の中にあるとき、人はその理性のゆえに、神を見失うことがあるでしょう。そこに神はおられないと、私たちの目に映る現実の中に、深く隠された神の肯定があると、私

（待降節第1主日）

主日礼拝ライブ配信の回想録

ー心地よさを目指してー 2

田〇〇夫

II 社会の動きの中で

コロナ・ウィルスの驚異は、当然のごとく教会活動にも波及し、今まで毎週実施されてきた日曜日の主日礼拝にも、大きな影響を与えることとなりました。それは、日常生活の一部として位置付けられていた当たり前の主日礼拝が、感染リスクを考慮するが故に大きな変更を余儀なく

され、また、教会によっては休止するという事態として顕れたのです。そして、その現実を目の当たりにした多くの信徒の皆さんは、主日礼拝がコロナ・ウィルスによって奪われてしまうのではないかと、との焦りにも似た複雑な思いを抱きつつ毎日を過ごすこととなりました。

そんな信徒の皆さんの動揺に対し多くの教会は、速やかにネットを使った主日礼拝のライブ配信とそれを視聴する信徒の皆さんのネット環境の充実を図るべく、ハード・ソフト両面の環境作りに着手しました。

今月の受洗記念日の皆さん

- 2日 〇野〇之兄 5日 〇辺〇兄
- 〇澤〇子姉 8日 〇仙〇姉
- 12日 〇藤〇子姉 17日 〇井〇樹兄
- 18日 永〇〇子姉 19日 〇林〇太兄
- 山〇〇子姉、〇野〇兄、〇澤〇子姉
- 20日 吉〇〇子姉、小〇〇み姉、〇嶋信〇兄
- 〇田英〇兄 21日 〇利〇子姉、〇井信〇兄、〇〇子姉
- 〇谷〇一郎兄、五〇〇〇兄、〇山〇明兄 22日 長〇川〇〇美姉、田〇〇〇姉
- 市〇〇江姉、秋〇〇子姉、秋〇〇子姉、大〇早〇姉 23日 〇田〇子姉、松〇〇子姉、小〇美〇子姉、〇鯛〇一兄、〇藤〇兄、〇〇子姉、伊〇〇〇兄、〇野〇兄
- 〇野〇兄 24日 〇村〇子姉、〇原〇輔兄、〇谷〇子姉、〇野〇子姉、〇野光〇兄
- 〇野晶〇兄、〇野麻〇姉、〇山〇郎兄、〇山〇子姉、〇山〇姉、〇山〇兄 25日
- 〇木〇子姉、〇村〇子姉、森〇〇子姉、〇原〇子姉、〇原〇太郎兄、江〇〇子姉
- 〇本佳〇兄、〇藤〇美姉、上〇〇美姉、定〇〇子姉 おめでとーございませう。



「あなたの御言葉は、わたしのものとなり
わたしの心は喜び躍りました。」エレミヤ書 15章 16節
毎日日曜日のウェブサイト <https://www.jcfc-fujigaoka.com/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日朝7時前10時前)

それは抱かれた不安の解消と共に感染リスクを心配して礼拝に出席したくても控えてしまう方々と、そして教会活動に興味はあるものの参加することの出来ない人々へのフォローとして、積極的に始められました。

ネットの発達した現代社会では、当然の流れだとは思いますが、それ以上に今まであまり注目されていなかったであろう主日礼拝のライブ配信に対し、新たな宣教・伝道の手段としての役割を見出しつつ、今後の

■牧師室より

今回、教員、客員、求道者の皆さんに、アンケートをお願いしています。教会のこれまで、そしてこれからについてお尋ねしています。皆さんからの声をお寄せいただき、2度、3度繰り返す中で、皆さんの声を集約していく手法(αアルファイ法)を用います。これによって、これにより通常、届きにくい小さな声をお聞きする機会になりますし、互いに意見を分かち合い、選び取っていくことで、皆さんの声を形にしていくことが出来ると思われれます。

宣教方策を計画立案する上での力強いツールとして再認識されるようになったのです。

そのような動きの中で、藤が丘教会では感染拡大が始まる以前より主日礼拝のライブ配信に力を入れて実施しておりました。それは、Zoom(ウェブ)を利用した宣教と伝道の意義をいち早く認め、目まぐるしく移りゆく現代社会に対し確かなものをお届けしてゆく一つの手段として毎週配信していたのです。(続く)

これを今後の教会の宣教方策に活かすことができればと願っています。牧師や役員会が提示した方策ではなく、皆さんと共に作り上げていく方策を作ってまいります。「教会は全信徒の集まり」と、信仰告白にありますように、ルーテル教会では教会を人と考えます。ですから、藤が丘教会のこれからの歩みも、人である皆さんの貴重な声をいただきたい、それを形にしてまいりたいと思います。皆さんの声で作られた、宣教方策ですから、皆さんで実現していけるよう、一人でも多くの方のご協力をお願いします。(佐藤)